



三次中央会報

ロータリークラブ

2018-2019 ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2710

事務所/広島県三次市十日市東 1-16-19
TEL (0824) 64-1245
FAX (0824) 64-1245
E-mail m-c-rc@vega.ocn.ne.jp
http://mrcr.server-shared.com

例会場/広島県三次市十日市南 1-5-5
グランラッセ三次2F

例会日/月曜日 12:30~13:30

会長/角谷俊典

幹事/栗本清秀

●2018~19年度 国際ロータリーのテーマ



インスピレーションになろう

●2018~2019年度 三次中央RCスローガン

広げよう ロータリーの心
増やそう ロータリーの友

- 本日のプログラム 年次総会、次年度役員選出/上半期報告
石田君、杉谷君、上田君、中重君、沈君、小田君、
大井君、沖土居君
- 次回例会日時 2018年12月10日(月) 12:30~
- 次回プログラム ゲスト講演/社会奉仕委員会

■第1244回例会記録

- 日時.....2018年11月26日(月)12:30~
- 点鐘.....会長
- 国歌「君が代」斉唱.....全員
- ロータリーソング「奉仕の理想」.....全員
- ゲスト紹介
将棋講師 松田竹二郎様

■開会挨拶.....角谷会長

腕のいいセールスマンとは



皆さん、こんにちは。本日は、ゲスト講演です。松田竹二郎先生、ご多忙の中お越しいただき、誠にありがとうございます。後ほどご講演いただきますが、よろしく願いいたします。私も中学時代、将棋にはまっておりました。楽しみにしております。

次回例会は年次総会となっております。総会に先立ちまして、次年度理事役員の指名委員を発表させていただきます。委員長に町里会員、委員に安藤会員、平田和弘会員、水野会員、酒井会員、以上の5名です。どうぞよろしくお願いいたします。

ところでここにいらっしゃる皆様は、経営者としてあるいは組織のトップとして頑張っておられますが、「腕のいいセールスマン」と聞けば、何を連想されますか。当然、営業実績が常に上位でバイタリティー溢れるような方を連想されると思います。

一方で「腕のいいセールスマンは商品の説明をしない」と言われることがあります。

先日、ショッピングのついでに話題のテレビ売り場におりましたら、案の定、店員さんが近寄ってきてテレビの説明を始めたので、この手の接客が苦手な私は離れて別の売り場に行きました。腕のいいセールスマンは一瞬でお客が商品を買うかどうか見抜くそうです。私に近寄ってきたのは、あまり腕の良くない店員さんかもしれません。

商品を触ったり、手に取ったり、試しにサービスを受けたりするような人は購入する確率が高いそうです。その時、腕のいいセールスマンは商品の機能の充実やメリットをアピールするよりも商品によってもたらされる楽しさとか喜びとか幸せを感じるようなイメージを喚起させるのだそうです。このことが一番客を引き寄せるコツだそうです。このことはビジネス以外にも使えますよね。

ロータリーの説明をするより、入ってどんなに楽しいか、為になるかをアピールできたらどんなに素晴らしいでしょう。そうすると増強も少しずつ可能になりませんか。そんなアピールができるクラブを目指しましょう。ちなみに言葉巧みな詐欺にだまされないように注意ですね。

■米山功労者表彰



平田博紀君…第5回米山功労者
沖君…第4回米山功労者
沈君…第2回米山功労者
平田和弘君…第2回米山功労者

■幹事報告

栗本幹事

- 次週12月3日は年次総会、次年度役員選出、上期報告です。上期報告を石田君、杉谷君、上田君、中重君、沈君、小田君、大井SAA、沖土居会計、よろしく願います。
- 次週12月3日は午後7時より第6回理事役員会をグランラセーレで開催いたします。
- ゴルフ同好会の忘年会杯ゴルフを11月28日に富士三次カントリークラブで行います。集合時間は9時です。

■出席報告

水野委員長

- 第1242回 11月12日

会員数	41名	Make-up	5名
欠席	9名	出席合計	37名
欠席者の付帯定免額	1名	出席率	92.50%

- Make-up…松本君、信国君、沖君、酒井君、沈君、
- 第1244回 本日の出席は41名中36名です。

■ロータリー財団

村竹担当

財団への寄付の受付を来週まで延ばしますので、ご協力をお願いします。

■SAA

大井SAA

- 会員誕生日…竹野君、村竹君



- 会員ニコニコBOXご出宝

ニコニコBOX本日出宝額 26,000円

■プログラム《ゲスト講演》

青少年奉仕委員会

本日は、松田竹二郎先生をお招きし、将棋の話、青少年育成につきご講演をいただきます。

実は、私中学生の時は将棋部に在籍しておりました。また、息子も三高の時は将棋部で、わか家の団らんと言えば、オセロより将棋でした。子ども達が小さい時はすぐ勝負あったで、早く終わるのですが、次第に実力が互角になるとなかなか終わらなくなり、最近では、私の力が子どもらに劣るようになり、勝負あった、であつと言う間におわるようになりました。

それでは、松田先生宜しく願い致します。

小田耕三青少年奉仕委員長



三次の将棋界

将棋講師 松田竹二郎

本日はお招きくださりましてありがとうございます。本音を申しますと、お招きいただいて大変に嬉しいのです。と、申しますのは、この夏、十日市中学校の将棋部が2年連続で全国大会団体戦に優勝しました。この成果をどこかで発表したいと思っていました。この機会を与えていただいたことに感謝しております。

私の本職は学校の先生です。将棋と関わるようになったきっかけは、初任校の吉舎で、近くにある当時の公民館が地域学習活動の一環として子ども達に将棋を教えてみないかと誘われた事です。吉舎で9年勤め、その後十日市中学校に7年、その後栗屋小学校などで勤務いたしました。そんな折、プラザで文化教室が開かれる事となり、今から30年前に教室を持つ事にしました。三次の将棋支部は、私が造ったものではありません。栗屋の中下さんという方が作られたのですが、会員が集まらず、辞めようかとなった時、せっかくだからと、私が引き継ぎ現在に至っています。でも、ただやっているだけという時期が長く続きました。将棋教室は月に2回、しかも2時間ずつ。合計4時間の教室では強くなる

訳はありません。また、教えたからといって必ず強くなるものでもありません。ですから、教室は将棋に関わろうとする人の窓口になれば良いという位に考えていました。

そんな折、学校が週休2日になり、毎週土曜日が完全休日になると、親も子どもをどうすれば良いのか、心配になります。子どもの個性の伸張は親がまず機会を与える事だと思います。この土曜日完全休日と、将棋の全国小中学校団体戦が開催される事になったのが将棋教室の盛会を助長したと思っています。仲間が出来て切磋琢磨し、目標を持つ事は、子どもの能力を伸ばす上で大きなポイントだと思います。また最近では将棋教室通信を発行し、それによって親も子ども達の今取り組んでいる事を知り、親もいっしょに巻き込み、その気にさせ、子ども達を誉めてやるということも、成長への大きなバックアップに繋がると信じています。

さて、藤井翔太7段の活躍で将棋界がかつてなく注目を集めるようになりました。プロ棋士になるというのは、はっきり言って東大に入るより難しいと思ってください。何手先まで読める、というのが大切なものではありません。この局面でどれが最善の手かということが読めるというのが大事なのです。このことは、皆様方の経営者の立場も共通していることだと思います。



十日市中学校将棋部 全国大会2年連続優勝
左から 熊谷君、国広君、北川君



全国大会出場の三次高校
左から山川さん、隅原さん、岩瀬さん
山川さんは個人でも県代表として全国大会へ出場

最近ではAIとの対決も話題になっています。なぜ、AIが強いのか、それはAIは計算能力が得意分野だからという事です。ずっと計算している、夜も昼もずっと、プログラミングを組んでずっと学習させる、学習能力を上げさせる。だから、だんだん強くなる。

将棋は将棋の能力、経営は経営の能力、その世界に入り込んでやる、落ち着いて感情に左右されず物事を考える事が大事と、皆様を前にして生

意気ですがそう思います。

最後に、三良坂町出身の升田幸三名人を記念し、今年も8月末の日曜日に、200名近い方々の参加をいただき、十日市の三次きんさいセンターで、第26回升田幸三杯将棋大会が行われました。三次市の補助金をいただいております。ご紹介させていただきます。

■謝辞
■点鐘

角谷会長
角谷会長



(三次よもやま55)

三次の「さかなクン」 志幸町 伊野帆飛 (はんと)くん (小3)



彼との出会いは、百日の撮影に来てくれたのが初めてでした。といっても彼は生後100日目の赤ちゃんですから、三次のさかなクンになるなんて、想像すら出来ませんでした。七五三にも来てくれ、入園にも来てくれ、そして小学校の入学の記念写真を写りに来てくれた時、そこに見たのは、三次のさかなクン伊野帆飛くんでした。「このボードに何か書いて写ろうね」と、小さな撮影用の黒板を渡すと、彼が描いたのは、素晴らしい魚の絵でした。すごっ!!

以来、この魚好きの彼がその後どうなったのか、気にかかっていました。そして、この春、妹さんの入学写真を写りに来てくれた彼に「やっぱり魚、好きなの?」「夏休みに大板の海遊館に行った。」と言って彼が描いたのは、イトマキエイでした。な〜んだ、結構地味目。

ところが、彼の講義(?)を聞くと、その生態の面白さに引き込まれて行きました。

先日、帆飛くんの顔写真の撮影依頼がありました。聞くと、朝日新聞社主催、日本水産(ニッスイ)協賛の「海とさかな自由研究作品コンクール」の最優秀賞8作品のひとつに選ばれたというのです。研究テーマは「ウチワエビの観察」(写真)おめでとう!帆飛くん!!

* 私と、帆飛くんと、お母さんとの会話*

私 「はんとくんって、どんな漢字を書くの?」 はんとくん 「ホタテの帆、トビウオの飛」

私 「ええっ〜?!ねえ、お母さん、生まれた時から、魚を意識して名づけたの?」
お母さん 「いいえ、私は魚なんて、そんなつもりは全く無かったのに、この子が、自分の名前を言う時は、そう言うんですねえ〜」

そんな彼の夢は、魚の魅力を広めることだそうです。写真撮影の後、お母さんにせかされながら車に乗るまで、魚の面白い生態についてず〜っと話してくれました。

その時点で、彼は私のteacherでした。正に写した赤ちゃんに教えられデス!

